

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年7月5日
タイトル	ぜんぶ手で植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年6月14日（水）福山市立駅家西小学校5年生51名が、駅家西学区内の町内連合会会長や町内会長の協力で水土里ネット福山の組合員の岡田国彦さん指導により田植えを体験しました。

駅家西小学校の学区全ての町内会から町内会長さんをはじめ多くの地域の方が学区全体の取組としてこの農業体験を支えておられます。

校庭で、先生より地域の方々のご協力によって貴重な農業体験ができることや地域の方に感謝の気持ちを持って接することをお話されました。そして、みんなで歩いてほ場に向かいました。ほ場に着くと地域の方が大勢集まっておられ、端の方を植えて準備をして待っておられました。



始めに子どもの代表から挨拶をし、みんなで大きな声で「お願いします。」と挨拶をしました。連合町内会長から「ちょうど30日前に蒔いた粃が成長し、田植えができるようになりました。土の感触を楽しんでください。」と挨拶がありました。

子ども達は、すぐに裸足になり田んぼへ入ります。殆どの子が田植えは初めての子ばかり、最初は土の感触に「気持ち悪い」と歓声があがっていましたが、すぐに慣れて「気持ちいい」とか「冷たい」といった声が聞こえてきました。

ほ場の端から端まで横一列に並んで、後ろに下がって植えていきます。はえ縄の赤い印のところに植えるのですが、なぜか印から離れて植えてしまったり、苗を3から4本持って植えるよう教わったのですが、油断すると増えてしまったりして地域の方が注意しておられました。



地域の方が「ぎょうさん植えちゃーいけんで。ようかんじょうせんと、どんどん増えようで。」と注意されたのですが子ども達は方言がよく分からず、キョトンとしていました。「たくさん植えたらいいけんよ。よく数えないと、どんどん増えてるよ。」と言い直され、みんなで大笑いし楽しい田植えとなりました。

三列ほど植えると慣れてきて植えるスピードも速く、植えた苗もピンとして地域の方が植え直すことがなくなりました。

全部植えたらほ場からあがり、近所の家でホースをお借りして手足を洗わせていただきました。以前のほ場では用水路で洗いましたが、このほ場の近くの用水路は深いため子ども達には危険と考え、やめたそうです。

最後に、子ども達から大きな声で「ありがとうございました。」と挨拶があり、連合町内会長から「この田んぼは学校から近く、通学路に隣接しています。これから4か月登下校の時に稲の成長を見守ってください。」と挨拶されました。



JR福塩線の電車が目の前を通っていきました！



みんなで頑張って手で植えた稲です！

水土里ネット福山から、今回の農業体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に「農業用水路等への転落防止の呼掛け」と福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

稲刈りまで稲の成長を見守り、稲刈りもすべて手作業ですることとなります。この貴重な体験を通じて、農業や環境など様々な分野に関心を広げてもらいたいです。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子取材いたします。